

テキストジャンルとル/タの対立

生田守

国際交流基金日本語国際センター

研究の目標

- テキスト内に現れる、テンポ^oーラルな対立を分析し、いくつかの言語から日本語のル/タの対立を照射する。
- テキストの種類とテンポ^oーラルな対立についての関係性を模索する。

1. ジャンルについて

・A conventional function of language

---Culler (2002)

・Taxonomy of discourse:

Narrative, Procedural, Expository, Hortatory

--- Longacre (1996)

・歴史叙述と話

---バンヴェニスト(1966)

・〈はなしあい〉〈かたり〉

---工藤(1995)

2. Tense, Aspect, Modality(TAM)

tense-aspectにおけるmodality の分布

modality	tense	aspect
事実	過去	パーフェクティブ
	現在	パーフェクト
		進行
非事実	未来	習慣
		反復

3.1 ル/タの対立－文レベル

スル形：事態をただ事態のタイプとして、
素材的、前状況的に述定する形式

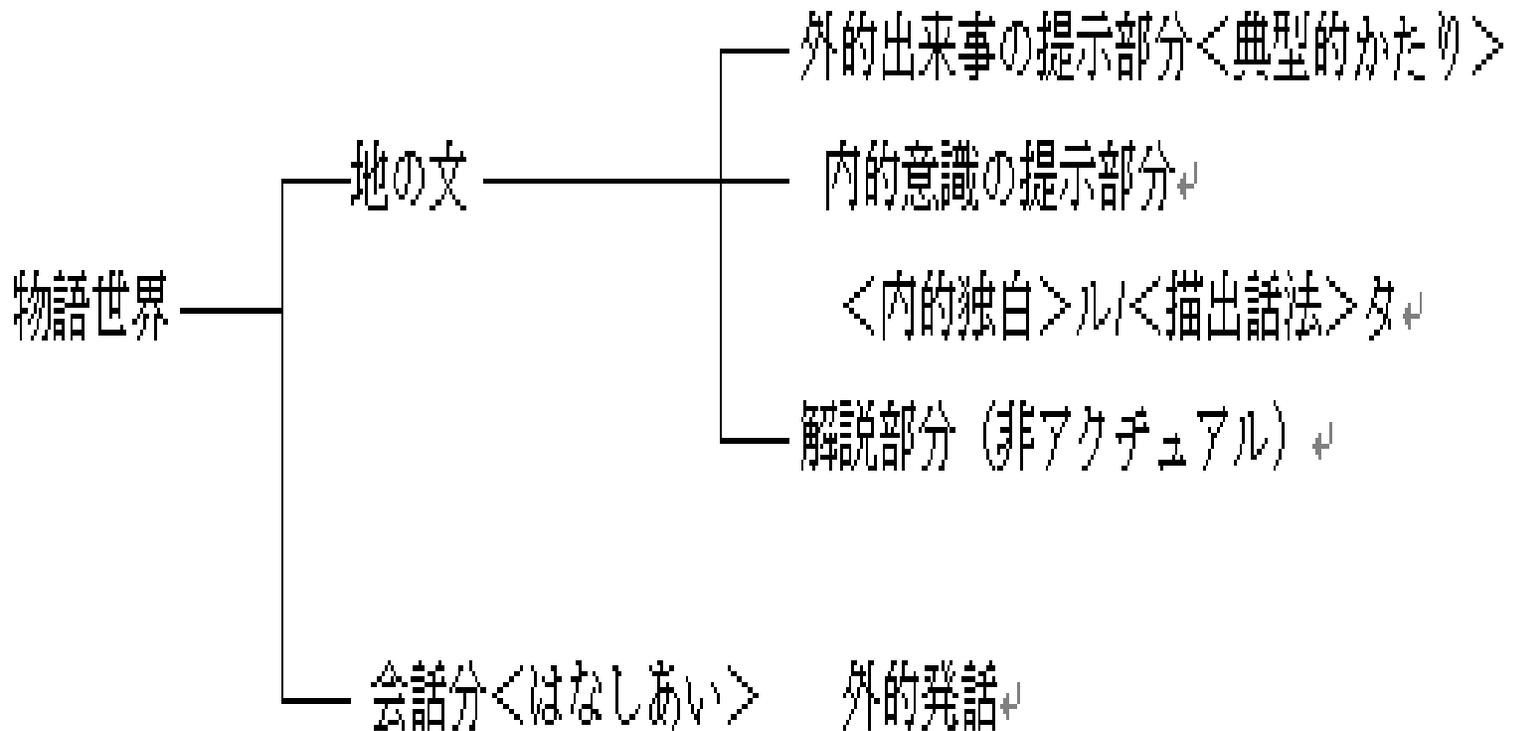
シタ形：「その事態はすでに存在している」
という基準点からの関係づけを含んで
述定する形式

スル対シタをテンスの対立と見ることは無理

――尾上(2001)

3.2 ル/タの対立ーテキストレベル

---工藤 (1995)p.192-195



4. Koinee Greekテキスト(A)

- 不定過去(Aorist)と未完了過去

perfective (一回性、行為の完結性、点過去)

vs.

imperfective (反復、行為の持続、背景描写、
線過去)

4. Koinee Greekテキスト(B,C)

- ギリシア語の歴史的現在と談話機能
後方照応(cataphoric)的な機能:

現在形が指し示す出来事そのものの前
景化ではなく、重要な場所に登場人物を導
いたり、重要な事物やせりふを導入する働
きがある。

---Levinsohn(2000)

5. フランス語テキスト

- 参照時点 (R-time) を移動させることによる
〈話〉的な描写と〈かたり〉的な描写の
塗り分け
- 迂言的・統語的な手段 vs. 形態論的な手段
parfait, plus-que-parfait vs. imparfait, aorist

NB. 統語的な手段: venir de+inf.(近接過去), aller+inf.(近接未来)

6.1 ヘブライ語の動詞とTAM

- ヘブライ語動詞のシステム

語根 → 態 (7種) → 活用形 (TAM、人称、性、数)

QTL → QATAL → *qatal* (3人称.男.単、完了形)

→ *qatalta*(2), *qatalti*(1),

→ *yiqtol* (3人称.男.単、未完了形)

→ *tiqtol*(2), *eqtol*(1),

6. 1 ヘブライ語の動詞とTAM (続)

- 活用形

qatal : 完了形 perfective

(接尾活用、現代語では主に過去)

yiqtol : 未完了形 imperfective

(接頭活用、現代語では主に未来)

qotel : inclusive (分詞、現代語では現在)

6.2 テクストレベルでの用法

---Hatav(1997), Givon(2001)

Wayyiqtol : 継起性、過去 (non-Modal)

W-qatal : 継起性 (Modal)

Qatal : off-sequence (non-Modal), perfect、
反実仮想、心的・状態動詞の現在

Yiqtol : modal文(未来, 条件、真理、習慣)

同時的な状況、願望法(1人称)、指示法(3人称)

Qotel : 現在、進行 (non-Modal)

6.3 ヘブライ語テキスト(A)

ジャンル: ナラティブ

- wayyiqtol 形で出来事を発生順に述べる。参照時点(R-time)の更新
- qatal 形は出来事の継起からはずし、背景を述べている。(同時性も)

6.3 ヘブライ語テキスト(B)

- 律法の部分 Procedural
- deontic modal文の連続

yiqtol 形は、義務をあらわす

wqatal 形は前文との必然性から、
継起性を意味する形式として使用

6. 3 ヘブライ語テキスト(C)

- poetic text(Hortatory):
qatalと yiqtol の対立の性質がABと異なる。
- 2人称へ向けての語りかけ・依頼、1人称からの願望・意志、3人称に対する賞賛・願望
- テンポラールよりも、モーダルな対立が優位
- 人称性、動詞の内在的意味、文脈とTAMの関数

7. 日本語テキスト：ル/タの対立

D.語り手が1人称である〈私〉小説

- タ形で語られた町：錯覚の産物（非実在）
実在領域において描かれている
- ル形で描かれている町：実在の町
眼前に展開する知覚対象として

7. 日本語テキスト:ル/タの対立 (続)

- 町の実在性は、タ形において、より確からしさをもっている(?) more factual(?)
- 言語的により確かな実在性を持って描かれた町＝〈私〉によって錯覚された町
- 「現実よりも錯覚に実在性」というモチーフ

8. まとめと展望

- テンポラリティを動詞の形態論的カテゴリーとして有する言語の、テキストレベルでのTAM分析
- テンポーラル表現とモーダル表現の関係性と、テキストジャンルによる変容
- 作品の性質とTAMの用法
- 作品のより深い味わい